

弱点把握シートを使った訓練手法の導入 に向けた研究開発

背景と目的

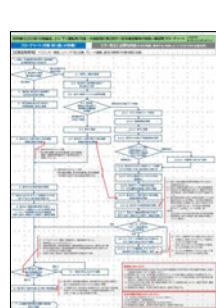


- 【背景】 当社は注意を要する事象のうち繰り返し事象の完封を掲げ、乗務員区所では指導員が乗務員に訓練しているが、**事象が繰り返し発生**している。2023年度の研究で、この要因は“乗務員が自身の**弱点を把握**できていないこと”と考察し、“弱点把握シートを使った訓練”を開発。しかし、訓練時間を多く要することに課題があった。
- 【目的】 **弱点把握シートを使った訓練を短時間で実施する方法を確立**する

開発したもの

■ 2023年度の手法(フルver)

① “弱点把握シート”(弱点を分かりやすくする)



方針1. 自職場への落とし込み
→ 自分事として捉え易くする

方針2. 作業手順等の
フローチャート化
→ 作業手順を抜け漏れなく、最後まで理解し易くする

方針3. 仕事の本質・注意点
・「なぜ」の理解
→ 手順の意味や機器の仕組み等を理解し易くする

方針4. 機器画像の貼付
→ 機器名称と画像をセットで記憶し易くする

■ 2024年度の手法(時間短縮ver)

- ・2023年度に行った**弱点把握をするために必要な要素※**を残し、**訓練時間内で実施可能な方法**を検討する

※ 弱点把握をするために必要な要素
・弱点把握シートを作成・活用する
・指導員・乗務員間で双方向議論をする

パターン1

定例訓練(枠外含む、机上)で弱点把握シートの説明、指導員からの問いかけにより各自が弱点を把握



パターン2

- ・定例訓練(机上)で弱点把握シートの説明
- ・数か月後の定訓で代表者が**SIM**試技、代表者以外はセルフチェック



パターン3

フォローアップ訓練等の訓練に必要な時間が確保しやすいタイミングで実施



② “3つの手順”(弱点を引き出し自覚を促す)



方針5. 乗務員のセルフチェック
→ 乗務員の気付きを促す

方針6. 指導員からの質問
→ 乗務員の弱点を出し切る

方針7. 指導員と乗務員間の議論
→ 他者の弱点を聞いて内省する

手法を工夫して実施

実施

訓練手法の評価

■ 乗務員へのアンケート結果 (n=351名, 12職場)

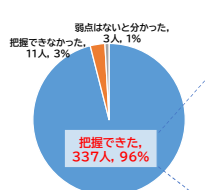


図1 試行により弱点を把握できたか

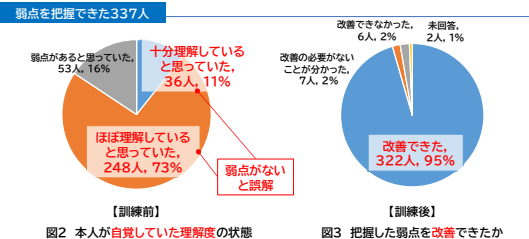


図2 本人が自覚していた理解度の状態

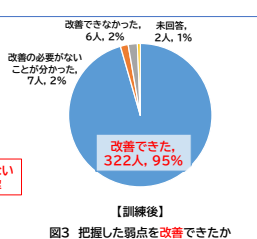


図3 把握した弱点を改善できたか

- ・弱点把握シートを活用した訓練により、**9割以上の乗務員が自身の弱点に気付けた**
- ・自身の弱点に気付けた乗務員の**8割以上が、自身に弱点がないと誤解していた**
- ・自身の弱点に気付けた乗務員の**9割以上が、訓練の中で弱点を改善できた**
- ・**短時間**で訓練を実施した場合も、乗務員が自身の弱点を把握できた

- ・「自身には弱点がない」と認識している乗務員も、**本訓練により弱点を把握・改善できる可能性が高い**
- ・2023年度実施のセルフチェックを発展させた**別の方法で、乗務員自身の弱点を把握できる可能性がある**

訓練手法の良い点

- ・取扱いの網羅性
→ **知識の抜け漏れを自覚しやすい**
- ・注意点も含めた明文化
→ 取扱いの**本質を考えやすい**
- ・自分事への置き換え
→ 乗務員の**弱点を出しやすい**
- ・指導員・乗務員間の双方向議論
→ 他者の**工夫等を共有しやすい**